

地域と協同の 研究センターNEWS

2020年8月25日発行
192号

協働・夢プロジェクト（略称夢プロ）を設立して早や10年されど10年

今井 信彦（協働・夢プロジェクト前専務理事）

南医療生協病院の新築にあたり地域におけるくらしとネットワークを有機的に束ねていくために「協同組合間提携を考えるプロジェクト」を3者で2008年10月に発足しました。

1年半にわたり3者（南医療生協、現在の大学生協事業連合東海地区、現在のコープあいち）の理事及び職員の交流会、そして協同組合間の提携事業の検討を積み重ねてきました。そして基金と会費をお互い拠出し、まずは2010年3月にオープンする南生協病院の事業支援をスタートさせ今後3者の強みをいかし地域に安心してくらしせる「まち」づくりに貢献するために、一般社団法人「協働・夢プロジェクト」を2010年2月20日に設立しました。

定款の中で事業の目的として以下5点を掲げました。

（目的）

- （1）健康で安心してくらしせるまちづくりに関する調査・研究・情報提供の事業
- （2）市民と共同して地域福祉と相互扶助を支える人材の育成と研修の事業
- （3）協同組合間の提携と各協同組合事業の発展に資する事業
- （4）地域福祉と生活文化の向上、及び健康の増進に資する事業
- （5）前各号に附帯関連する事業

事業的には、3年目で累積赤字を解消して何とか事業の継続を進めてきました。しかし今回の新型コロナウイルス感染症にともなって、病院本体はもとより夢プロも今後困難を抱えざるを得ないでしょう。しかし「明けぬ夜はない」ことを確信して（確信したい）事業継続を進めていくと思います。またこの間協働事業として実施している人材の育成に関して更に強化していくべき課題（事業）です。生協は、何よりも「人」です。協働する事・助け合う組織として今後も大いに期待したいです。

設立当時から専務理事を拝命し、10年。あっという間でしたが、次なる人にバトンタッチとなりました。今後も3者で知恵を出し合い前進することを期待します。

（いまい のぶひこ）

研究センター 8月の活動

1日（土）第1回共同購入事業マスターコース	22日（土）第3回市民が協働を学びあう講座
2日（日）第1回市民が協働を学びあう講座（新城市）	豊田市（稲武）～設楽町（名倉地域）
3日（月）第2回市民が協働を学びあう講座（飛騨市）	23日（日）連続セミナー「多文化共生を促進する地域・社会的連携の取り組み」
4日（火）三河地域懇談会北設楽郡東栄町見学交流	第1回「地域で支える医療・保健衛生」と多文化共生
5日（水）三河地域懇談会世話人会	24日（月）愛知の協同組合間協同相談会
18日（火）第3回常任理事会	
20日（木）第2回協同の未来塾	

※ コロナウイルス感染拡大予防のため、予定していたさまざまな活動を自粛しています。

目次	協働・夢プロジェクト（略称夢プロ）を設立して早や10年されど10年	1	研究センター理事を退任するにあたって 野田輝己	4
	会員からのメッセージ	2	情報クリップ	6
	コロナに負けない！みんなで知恵や力を出し合って前澤このみ 村中美耶子 清水孝子		書籍紹介	8
			「ワイルドサイドをほっつき歩け」	

会員からのメッセージ

コロナに負けない！ みんなで知恵や力を出し合って

新型コロナウイルス感染が拡大して思うように活動できない中で、がんばっている3人の会員にメッセージをお寄せいただきました。

編集：伊藤小友美（事務局）

コロナ禍での日々

前澤このみ（新城市社会福祉協議会 会長）

4月24日 1週間ぶりに社協へ出たら、受付カウンターにはアクリル板が立てられていました。事務所内の密を防ぐために小さい会議室を使って職員はバラバラに仕事しています。窓もドアも開け放して、風が吹き通っています。「広く開け放したカウンターが来館される方に開放的でいいねー」と設計したのに、それを塞ぐ日がくるとは思いませんでした。

5月18日 残念ですが、研究センター総会は欠席します。社協のみんなに「遠くへ出かけないでねー」と言われています。しんしろ福祉会館ではデイサービスや訪問介護のスタッフはもちろんのこと、生活福祉資金貸付に対応する担当も毎日ドキドキしながら忙しくしているので、私に出来るのはみんなに心配かけないことくらいです。

5月11日に市役所のコロナ対策本部から若い職員が御用聞きに来てくれました。

貸付担当から「手持ちの現金が少なく相談にみえる方もあるので、住民票や印鑑証明書交付の費用が払えないこともある」と聞いたのを伝えたところ、窓口で交付申請用紙に「生活福祉資金貸付用」と記入すれば料金無しになりました！15日には印鑑証明書は付けなくてよいことにもなりました。

マスク不足の中で 5月19日には、立正佼正会豊橋教会の方が布マスク200枚をくださいました。たくさんの方の好意に「ありがとうございます！」と言うのが私の仕事かな？と思います。「いただいた温かい気持ちを次につなぐような使い方を考えようね！」と職員と話しています。モノだけどモノ以上の何かを感じます。アベノマスクには無い何かを。新城高校家庭クラブのメンバーも可愛いカード付きの手作りマスク200枚を届けてくれました。市内6か所のふれあい相談センターを通じてお一人暮らしでデイサービスなど利用されていない方優先に配る予定です。

5月28日 研究センターニュースが届きました。成元哲先生が言われるようにコロナ以前に戻ることは出来ないで、これからどうしていくか？それぞれに考えて工夫するしかないですね。そういう知恵の交流に研究センターが役立ったらうれしいし、ありがたいなと思います。

7月2日 新城市内の社会福祉法人連携会議を開催。今後の対応で協働できたらと思います。

8月7日 明治安田生命保険相互会社より「私の地元応援募金」をいただきました。市商工会発行の買い物券「い〜じゃん券」と食料品を緊急小口資金の申請者に渡します。貸付は7月末で120件。

今後に向けて 現場で働く方々のアンケートをもとに市ができる施策の提案と地域福祉を応援する「福祉条例」策定を「福祉円卓会議」の答申として提出しました。

日々、相談の電話は入ります。予約の方が訪問されます。国際色も豊かで対応にマゴマゴしながら、これからもみんなでがんばります。

コロナによる成果

村中美耶子（コープぎふ・おたがいさまひだ 代表）

有償ボランティアの会「おたがいさまひだ」では、コロナによる非常事態宣言が出されてからも、「困っている人はコロナでも困っているんだから…」と応援活動を続けていました。

◆産後のお手伝い◆ 妊娠中に「産後は実家の母が手伝ってくれるが、その後ももしかしたら利用するかもしれない」と登

録をなさっていたMさん。「非常事態宣言により県外のお母さんの支援が受けられなくなったのでお願いできないでしょうか？」と出産2日前に電話がありました。「大丈夫！探します」と答え、退院後、週に3日程度ご飯作りと洗濯干し、お掃除の応援を2人の応援者で2ヶ月続けました。

◆家族が県外に手術に行かれた高齢女性の通院介助◆

ケアマネージャーさんから「2日後に通院介助をお願いしたい」との連絡。

Kさんという認知症 80 代おばあちゃん、娘夫婦と孫の 3 世帯同居。娘さんが目の手術で県外へ行く間、Kさんはショートステイへ。その間、Kさんお通院があり、今まではお孫さんが通院の付きそいで行かれていたので、ご家族は今回もそのつもりでしたが、ショートステイ先の施設から「県外へ行って2週間未満の家族と同居している人も通院介助は断ってください。もし、お孫さんが付き添うならばショートステイをやめてもらいたい」と言われたと。娘さんと連絡を取り、登録お介助後こして情報すべて電話でやり取り。診察券はポストに。コーディネーターが受け取りに行き、応援者へ渡す。全くKさんのお顔を知らないながらも無事にお介助終わり、2週間過ぎてから娘さんに登録&集金&診察券の返却に行きました。

上記の2件の他にもコロナならではの応援

コロナとささえあいの家 清水孝子 (各務原市 八木山地区社会福祉協議会 事務局長)

★ 0 (ゼロ) か1か

毎月全戸配布している広報誌4月号を作って、いつものように理事にこれでよいか承認を求めた。すると次のような意見がきた。

「4、5月は、広報誌は不要。活動してはいけない。5月末日までは完全閉館となれば、誰も出入りは不可だ。この事が結果として住民を守ることになる。ささえあい活動・移送は、5月中は休止とすべき。理由は人と接しない活動は無い、困る人を助けるは、今は理由にならない。マスク作りと配布は、良い事は許されるという考えなら即中止だ。何もせず、人と接せず、自宅待機がほぼベスト。」

これに対し、他の理事はどう考えるか、一堂に会するのは避け、聞いて歩いた。

- ・このような時期にこそ、助けを求める人に対し、活動すべき。3蜜対策はとった上で。活動は「0か1」ではない。
- ・こんな時活動しないのでは、社協の意味がない。
- ・今こそ、情報が大事。今まで培ってきた活動がこの時にこそ生かされる。マスク配布は見守りと感染予防に繋がり、大変喜ばれている。家には何の対策も取れない。コロナ対策は行動が大事だ。

大多数が同様の意見だった。

★「台所の電灯が壊れ、我慢していた。再開したささえあい活動で、明るくしてもらえ助かった」と言う人がいた。

もいくつかありました。

生協のガイドラインをもとにしつつ、ひだでの手段を運営委員会、コーディネーター、応援者、飛騨支所長など、いろんな方と常に話し合っていて考えました。

「応援を控えたい」という応援者もいました。反面、「コロナで仕事が無くなったから、できるよ」という応援者もいました。利用者さんは「来てほしい」という方がほとんどでした。それでも、何年もおたがいさまを利用していた方に対して、良い意味で次のステップへのきっかけとして、敢えてコロナを理由に応援を終了、もしくは回数を減らしたケースもありました。まだまだコロナは続きそうですが、みんなで話し合い知恵を出し合って乗り越えていきたいと思えます。

★こんな時何ができるか皆で考え、マスクを作り配布した。意外な人から、布の提供や製作の申し出があり、マスクを求める多くの人との繋がりができた。新1年生にも、洪水の被災地にも贈れた。製作した数は1000枚余となった。

★ホームページ担当者たちが zoom を学び、私たちにも教えてくれた。戸惑っている人の家に行って教える人もいた。社協の仲間の他、地域の人にも呼び掛け勉強会をした。今では多くの会議を zoom で行っている。おかげで私は研究センターの催しにも何度も参加できた。

★「ささえあい子育て」の仲間は、小学校の机等の「消毒」に通った。

★「ささえあい移送」で、車中、利用者は話をしとおした。「在宅」で溜まっていたのだろう。

★「ささえあい畑」の収穫物を、数十人の安否確認の手土産にできた。

行政の指示を拡大解釈した極端な意見に対し、それぞれが意思をもち、仲間と一緒に考え、新たな行動が生み出せる人と共に活動できた。

「ささえあいの家で月1回絵手紙を描く、これが私の唯一の自分の時間だったのに」と嘆く人がいた。サロンの閉鎖で、その価値の再認識ができた。

香港からの「自由」の重みのニュースを聞きながら

研究センター理事を退任するにあたって

野田輝己（農業経営・名古屋市）

第20回地域と協同の研究センター通常総会におきまして、地域と協同の研究センター理事を2001年から務めていただきました野田輝己さんが退任されました。今回退任にあたり、地域と協同の研究センターへの思いをふりかえっていただきました。（事務局：大島三津夫）

本当に長い間お世話になりました。研究センターの理事を今期で降りさせていただきました。

わが家の事です、市街化区域で、国の「農業の担い手」基準にギリギリ滑り込んで県と市の「認定農業者」に二夫婦4人ともなりました。

なったけど、市街化区域の農業は闘いの連続でした。大都市法下の都市計画でも集合換地の手法で農地の集約が可能だとする当時の新聞記事を市側に見せ、4地区の特定区画整理事業で採用される道を開きました。まだ地元の長老は庄内川沿いの水田地帯は江戸時代から下流地域の名古屋市城下の治水で遊水地の役割を担ってきた思いが染みついている世代でした。

「都市農業振興基本法」が全政党会派の賛成で成立したのも、東日本大震災と人口減少時代に入った認識が政治を動かしました。大都市への人口集中政策の反省から、防災上も都市農地への多面的機能が認められて成立したと、成立した翌日の農協の日刊紙「日本農業新聞」は特集で報じてくれました。しかしもう農家は過酷な固定資産税取り立てや、採算割れの農業での生計などは圧倒的に見放して、不動産収入でしか生計は出来ないと、バブル再来願望で固まっているのも事実だと思います。水害の拡大を広げる低地の宅地開発も、軟弱地や谷間の宅地造成も、自治体のお墨付き（造成すれば税収が上がる）で進められています。そういう考えに至って、発言していたら野田農場をぶっ潰す会が行政職や区画整理組合内に極秘裏に作られ、この10年負けることなく反撃しています。

「都市農業振興基本法」の具体化は、名古屋圏では3市で、研究センター常任理事の向井清

史先生が愛知県と名古屋市と北名古屋市の審議会の座長となられて、「振興計画」が作られました。

我が家にとっては「農地の線引き」以来「農地への宅地並み課税」反対を掲げ、妻は農業委員を14期頑張ってきました。当然家族も彼女の活動を支えてきました。大都市法下の首都圏、大阪圏の会合にも手弁当で参加して来ました。所属する農協も職務として公費参加していますが、その状況は一般には知らされませんでした。むしろ徹底的に差別を受けました。

私どもは、ほんとうに生協運動の先導的な向井先生の活躍に感謝を申し上げます。お陰で、調整化区域と同じように市街化区域の農業の担い手にも持続可能な跡継ぎに「農業経営移譲」という制度が昨年4月から適用できるようになり、我が家が全国で第一号となりました。4月から年末までに移譲書類の手続きが9ヶ月もかかりました。

50年突っ走ってきて70才になり、急激な筋力と足腰の衰えを体感し、経営移譲でき心底ほっと一息つきました。ある意味、我が家のSDGs、次の世代に何とか期待を寄せる専業の農家に、やっとなれたかもしれません。人生の終活と心得、跡継ぎに嫌われないように生きるすべを模索しようと思います。

41年前、めいきん生協（当時田辺専務さん時代）へ「完熟トマト」として納めた事（生協猪子石店）が民放テレビで紹介され、一つのブームを造ったこと、毎年専従職員さんと組合員の皆さんと「目ぞろえ会」をして産直開始をして

いたことを懐かしく思い出します。

猪子石店から日本中に「トマトは赤い（完熟・甘熟）」と広がったことをひそかに自負しています。（ヨーロッパなどのにぎわうマルシェの店頭風景は、早くに真っ赤なトマトが山盛りにして売られていました。）

農業生産者として協同組合運動の「産消提携」「地域と協同の研究センター」に参加して、たくさんの方の勉強をし、2011年9月20日の庄内川堤防の決壊時には、お見舞いや救援を頂きました。ありがとうございました。新たな研究センター活動の展開が構築されることを信じています。

この度の新型コロナウイルスでは、国内だけでなく、共通して浮かび上がった問題点がいくつもあります。国の農業の担い手（家族中が認定農業者=専業農家）として感じるのは、やっぱり食料問題が一番心配になりました。カロリーベースで国内産は40%を切り60%以上が輸入に頼っている我が国です。経済先進国では考えられない低い食料自給率状態を長く続けています。

今回の新型コロナウイルスで国際的な移動制限や、食料の輸出制限で、日本国内で問われる事は何か、みなさんと議論が出来たらいいなと思います。ご案内頂きました6月24日の「尾張地域懇談会」には、田植え作業の最終版で参加はできませんでしたが、世界中で猛威を振っている新型コロナで、今までのグローバル経済では対応できないこと、各国の防疫対応でも手を打たない国があるなど、不安材料は目白押しです。こういう緊急事態時の食料の各国の対応は、まず国内優先です。今回の現状は学校給食や会社の食堂、外食産業の長期の休止で、農産物流通が滞留マヒしたことです。我が家もトマトとミニトマトの40%の収穫を中断中止せざるを得ませんでした。

5月初めから約2ヶ月経営責任者になった

婿さんを今度は私がサポートに徹して、畔草刈・代掻き・田植え・水回りと経営移譲した跡継ぎの初めての田植えシーズンです。婿さんには絶対失敗させないとひそかに心に決めました。

やっと6月27日に苗田しまいが出来ました。田植え直前に4haの田が、前任者が耕作出来なくなったと尾張中央農協からの依頼も入り、6月中には田植えは終わらないかもしれないとさらに気をもんでいました。

「農繁期」は、今は通じない言葉になりつつあると感じる時があります。

2004年インドのムンバイでの世界会議でもフランスの代表が「小農（50ha前後）が淘汰され大規模化（200ha規模）され、総じて農民人口が減り農業問題が国民的に薄れていく。」と嘆いていたことを覚えています。また今年も地球温暖化の影響による豪雨が九州を中心に大災害として拡大しています。本当にこの人口減少時代に国は「地方創生」というなら、農業や一極集中の都市計画を国民市民消費者の協同組合運動で、安全安心な食料やまちづくりの道筋を示していく時代が求められていると信じています。

2020年7月

(のだ てるみ)

情報クリップ



co-opnavi 2020. 8

休刊

日本生活協同組合連合会 2020 年 8 月、A 4 判、36 頁、367 円

月刊 J A 2020. 8 vol. 786

全国農業協同組合中央会 2020 年 8 月、A 4 判、48 頁、年間予約 5,204 円（消費税込）

スゴイ農業、スゴイ J A

J A 自己改革の現場から

「感覚での酪農」から「分析に基づいた酪農」へ

— J A 浜中町（北海道）の取り組み 高橋良晴

トピック①

J A で働くこと ～新人の皆さん、先輩・上司の皆さんへ～

J A 全中 教育部 教育企画課

トピック②

ウイズコロナと気候変動時代「持続可能な農業」を日本から

太田景子

J A ・農政トピック

J A 経営戦略について考える

J A 全中 J A 改革推進部

きずな春秋 一協司のこころ—

童門冬二

私のオピニオン ①

ロバート キャンベレ

私のオピニオン ②

藤原辰史

今も私の胸を刺さっている言葉

秋山千佳

協同組合の広場

（日本生協連 J F 全漁連 全森連 WN J）

協同組合と SDG s 第 15 回

SDG s 目標達成に向けた

「コープのエシカル」の取り組みについて

駒形 文

海外だより [D.C. 通言] 連載 110

SDG s と世界の農業者の立場

伊澤 岳

第 33 回 広報活動優良 J A 紹介

組合員向け広報誌の部 優秀賞 J A 上伊那（長野県）

生活協同組合研究 2020. 8 No. 535

戦争・被爆体験の継承

公益財団法人 生協総合研究所 2020 年 8 月 B5 判 80 頁

■巻頭言 オンライン授業

麻生 幸

アジア・パシフィック地域研究会議 参加報告

近本聡子

特集：戦争・被爆体験の継承

被団協運動を原爆被害者と市民の協働の取り組みに

木戸李市

■研究と調査

買い物弱者支援における

生協と営利企業、自治体の協働の効果

—生協とコンビニエンスストアによる

—一体型店舗からの考察—

清水仁美

参考資料：原爆被害者の基本要素

—ふたたび被爆者をつくらないために—

当事者になる —体験の継承者から記憶の担い手へ—

直野章子

長崎の原爆体験を継承するために

山口 響

沖縄戦の次世代への継承

—ひめゆり平和祈念資料館の取り組み—

古賀徳子

戦争の記憶をどう引き継ぐか

：〈表の記憶〉と〈裏の記憶〉

山田 朗

■連載 協同組合系研究所の逐次刊行物より⑩ 最終回

『社会的連帯経済』

鈴木 岳

■新型コロナウイルスへの各国生協の対応 ④

カナダにおける新型コロナウイルス問題と生協の対応

山崎由希子

協同組合・相互扶助の保険組織と COVID-19（上）

小塚和行

■本誌特集を読んで（2020.6）

山根康寛・山田泰蔵

■新刊紹介 友愛・協同研究会編『友愛協同論』 鈴木 岳

●公開研究会

「〈第 3 回〉生協論レビュー研究会から

—現在へと続く生協のあゆみの考証—」

（8/27・四ツ谷）

●公開研究会

「人生 100 年時代の老後資金と資産運用」

（9/29・四ツ谷）

■海外情報

第 14 回 国際協同組合同盟

生協運営資料 2020.7 No.314
生協事業を取り巻く食品法制度への対応と新たな規範づくりに向けて
 日本生活協同組合連合会 2020 年 7 月 B5 判 80 頁 886 円 (送料別)

巻頭インタビュー

●わが生協かくありたい!

熊本地震やコロナ禍などの難局を乗り切り、
 次の 100 年に向けて地域での存在価値を
 さらに高めていく

生活協同組合くまもと●

代表理事 理事長 嶋田 誠氏

特集

**生協事業を取り巻く食品法制度への対応と
 新たな規範づくりに向けて**

1 食品衛生法が規定する HACCP に沿った
 衛生管理の実施

日本生協連●品質保証本部 品質保証部 部長
 山越 昭弘

2 食品表示法施行に伴う農産物加工品への表示対応
 日本協同組合連携機構●協同組合連携部マネージャー

加藤 美紀氏

J A 横浜●販売部店舗事業推進課課長 櫻井 賢史氏

販売部 店舗事業推進課 吉川 郁美氏

3 「もったいないプロジェクト」発の

商品開発による食品ロスの削減

パルシステム連合会●

渉外・広報室渉外・広報担当部長 植田 真仁氏

4 生協版適正水産規範策定に向けた

検討と今後の取り組み

コープ九州事業連合●

事業政策支援本部 本部長補佐 井ノ上 誠氏
 連載

●これからの店舗事業のあり方を考える

第 25 回 アメリカの流通業から学ぶ

地域の拠点としての店舗運営のヒント

日本生協連●事業企画本部 事業支援部部長 坂上 周司

●全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ

第 38 回地域 No.1 の業務品質を目指す業務改善の挑戦

あいコープみやざき●代表理事 専務 高橋 正人氏

特別企画

お互いさまの社会の実現に向けた

ローカルSDGs「5 GOALS for 黒部」の推進

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会●

総務課 課長補佐 / 経営戦略係 小柴徳明氏

文化連情報 2020.8 No.509

新型コロナに率先対応 県北部の救急担う新病院めざす

日本文化厚生農業協同組合連合会 2020 年 8 月、B5 判、88 頁、文化連情報編集部 03-3370-2529 *注

文化連総会でコロナ対策『特別アピール』採択

協同組合の価値高め安心の地域づくりへ

「声を聴く活動」展開し協同の成果

『会員貢献と自己改革』一令和元年度取り組み報告一

西出健史

院長インタビュー (320)

新型コロナに率先対応 県北部の救急担う新病院めざす

井関治和

二木教授の医療時評 (182)

第二次補正予算の

「医療・福祉提供体制の確保」策の評価と

経営困難な医療機関への財政支援のあり方 二木 立

新基本計画の諸論点 ③

令和初の食料・農業・農村白書を読む 田代洋一

本田徹医師インタビュー

臨床医と保健NGO活動従事者としての軌跡 (1)

国際保健活動と平和 中村哲医師を悼んで 本田 徹

新連載 アメリカの医療政策動向 (1)

新型コロナウイルス感染症とトランプ政権

一経済対策立法を中心に一 高山一夫

疫病の芸能・祭りと地域の生活 星野 紘

変わる日本のまちづくり (2)

暮らしのサポートセンター (大分県竹田市)

杉岡直人 島山明子

ドイツの対 COVID-19 戦略

地域の感染は地域で抑える

吉田恵子

国民が安全安心に暮らせる社会の構築 (4)

社会的経済で働く

一労働者の権利を守る労働者協同組合 友岡有希

野の風●好きなものと仕事の関わりについて

小林美咲

アフガニスタンから見た世界と日本 (3)

新型コロナウイルス感染拡大と

世界最大の感染症“結核”の悪化状況

レシャード カレッド

デンマーク&世界の地域居住 (134)

生活支援体制整備事業は 足を使った地域アセスメントから

(佐賀県嬉野市1) 松岡洋子

熱帯の自然誌 (53) 森林再生への試み 安間繁樹

ドイツの介護保険制度 (11)

ディアコニースタチオン・フランクフルト・アム・マイン (3)

介護改革 小磯 明

◆第 6 回厚生連病院臨床研究研修会開催のお知らせ

□書籍紹介 アフガニスタンで考える国際貢献と憲法 9 条

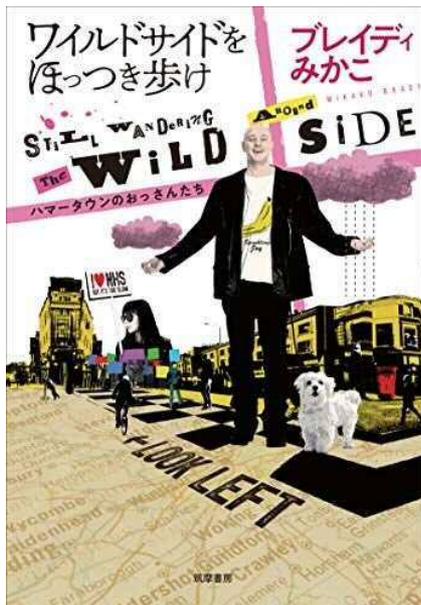
十二人の手紙

▶線路は続く(145)八高線 首都圏の端を行く/西出健史

▶最近みた映画 ハニーランド 永遠の谷/菅原育子

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

書籍紹介



ワイルドサイドをほっつき歩け ハマータウンのおっさんたち

著者：ブレイディみかこ 定価：1,485円（税込）
発行日：2020/6 出版：筑摩書房 頁数：251頁

著者：ブレイディみかこ

1965（昭和40）年福岡生れ。県立修猷館高校卒。音楽好きが高じてアルバイトと渡英を繰り返し、1996（平成8）年から英国 Brighton 在住。ロンドンの日系企業で数年間勤務したのち英国で保育士資格を取得、「最底辺保育所」で働きながらライター活動を開始。2017年『子どもたちの階級闘争』で新潮ドキュメント賞を、2019（令和元）年『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』で Yahoo! ニュース | 本屋大賞 2019 年ノンフィクション本大賞を受賞。他の著書に『THIS IS JAPAN』『ヨーロッパ・コーリング』『女たちのテロル』などがある。

内容紹介

前著『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』の中心は「青竹のようなフレッシュな少年たち」だったのに対し、本書は「人生の苦汁をたっぷり吸い過ぎてメンマのようになったおっさんたち」が中心である。メインになるのは著者の「連合い」やその友達、そして Brighton やロンドン周辺の人たちの、つまりイングランド南部の労働者だ。

EU 離脱の国民投票で、レイは、離脱に投票した。その国民投票の結果が発表された時の心境を、彼は『最初のガールフレンドから妊娠したと言われたときぐらいびっくりした』と表現した。レイが離脱に投票したことで、家庭内はもめにもめ、殺伐とした状況に、そんな状況を打破しようとレイがしたこと、PEACE という意味の漢字のタトゥーを彫って、妻に見せること。レイから届いた SMS、彼の腕に彫られている「平和」がなぜか「中和」になっている。おっさんたちは、離脱に投票したのだけれど、身の回りの移民に対する行為は優しい。強面の、スティーブは、『中国人たちの家に向かって、石や煉瓦を投げ始めたガキがいる。この辺に住んでいる人間として、黙っているわけにはいかん』と、見回りパトロールを始める。イギリス人にとっての NHS（国民保健サービス）が持つ意味、（おっさんたちが離脱に投票したワケがここで納得）イギリス労働者階級の思考の根底にあるものが、おっさんたちの言葉・行動からしみじみと伝わる。

（事務局・井貝 順子）

地域と協同の研究センター 9月の予定

- | | |
|--|-------------------------------|
| 5日（土）第2回共同購入事業マイスターコース | 18日（金）第3回協同の未来塾 |
| 10日（木）三河地域懇談会世話人会・オンラインミニ相談会 | 19日（土）東海交流フォーラム実行委員会
理事懇談会 |
| 11日（金）第4回常任理事会 | |
| 12日（土）第4回市民が協働を学びあう講座
公開パネルディスカッション | 24日（木）金城学院大学「協同組合論」① |

企画は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止・延期することがあります。ご参加の前にホームページ等でご確認ください。